

推進委員長賞

違いを認め合う、明るい社会を目指して

長崎小学校 小野 新太

僕がこの「社会を明るくする運動」という大切な場でみんなに話したいことは、僕自身の「話し方」についてです。

僕は、「吃音」という特性を持っています。言葉の最初の一文字を繰り返したり、「あ、あ、あの・・・」と声が詰まってしまったり、時には喉が固まったように全く声が出なくなったりすることもあります。この吃音は、僕が2歳の時からずっとあるものです。僕にとっては物心ついた時から当たり前の日常ですがみんなの中には僕の話し方を不思議に思ったり、どう接すればいいのか分からない人もいるかもしれません。僕がこれまで誰にも言えずにいた本音、みんなに知ってほしい「世界」について知ってもらいたいと思います。

2歳の頃に吃音が始まってから、僕は何度も「言葉の壁」にぶつかってきました。

特に辛かったのは、自分の話し方を笑われた経験です。一生懸命に言葉を伝えようとしているだけなのに、相手からクスクス笑われたり、真似をされたりすることがありました。そんな時、僕の心はぎゅっと縮こまります。言いたいことは頭の中に溢れているのに、出口で誰かに喉を締めつけられているような感覚。必死に声を出そうとすればするほど、顔は赤くなり、体には力が入り、ますます言葉は出てこなくなります。吃音が出るたびに僕は「普通に話せない自分が恥ずかしい」と思うようになりました。その結果、いつしか僕は話すことが怖くなるようになってしまいました。授業中の発表、教科書の音読、本当は言いたいことがたくさんあるのに言葉が詰まるのが怖くてちょっと違う事を話したりしてその場をやりすごす日々が続きました。

そんなとき池袋小学校の「ことばときこえの教室」というところがあることをお母さんから聞き、通ってみることにしました。そこでは吃音について考えたり、先生と発音の練習をしたりしています。時には、同じような吃音の子が集まって学習発表会や、交流会をします。交流会を通して友達もできました。そのような場所に行くだけでも「同じ人達がいっぱいいるんだな」と思えて安心できました。

学校の友達のことは大好きです。でも、これまで友達にも吃音のことを詳しく話したことはありませんでした。「吃音のことを話したら、変に気を遣わせてしまうのではないか」「ますます変な目で見られるのではないか」という不安が常にあったからです。友達と楽しく笑い合っている時でも心のどこかでは、「次は言葉が詰まるかもしれない」という恐怖が消えませんでした。吃音の状態がひどい時期は、朝起きてから「今日は何回詰まるだろう」と、一日の会話の回数を数えて憂鬱になることもありました。この孤独感は、誰にも言えない自分だけの秘密でした。

しかし最近になって僕は思うようになりました。僕が黙ったままでいたら誰も吃音のことを正しく知ることはできないのではないかと。そして、僕と同じように吃音に苦しんでいる誰かが、今もどこかで独りで泣いているのかな、と。世の中には、僕のように「言葉がなかなか出ない」という特性を持って生きている人がたくさんいます。それは努力不足でも、練習不足でもありません。ましてや、ふざけているわけでも、ただ緊張しているわけでもありません。吃音は、目には見えない障害のようなものです。自分の意思とは関係なく言葉が出なくなってしまうのです。

そんな僕たちにとって、一番辛いのは「笑われること」や「変な目で見られること」だけではありません。

ん。一番悲しいのは、僕たちが伝えようとしている「言葉の中身」ではなく、「話し方」の方ばかりに注目されてしまうことです。僕たちは、流暢に話せなくても、みんなと同じように誰かと話し、笑い、自分の思いを共有したいと思っています。

「社会を明るくする運動」は、誰もが安心して暮らせる明るい社会を目指すものだと聞きました。僕にとっての「明るい社会」とは、特別な配慮をしてもらう社会ではありません。僕が言葉が詰まった時、笑わずに、急かさずに、ただ「うん、うん」と最後まで僕の言葉を待ってくれる。そんな「待つ優しさ」が当たり前にある社会です。「何を言うか」を待ってくれる人が一人いるだけで、僕の緊張は和らぎ、少しだけ言葉が出やすくなります。もし言葉が出なくてもその待ってくれる時間そのものが僕たちにとっては「あなたの存在を認めているよ」という温かいメッセージに感じられるのです。

これから先も僕の吃音がすぐに治ることはないかもしれません。明日もまた、どこかで言葉が詰まって悔しい思いをするかもしれません。でももう隠すのはやめようと思います。僕は僕の話し方のまま、胸を張って生きていきたいです。みんなの周りにもし僕と同じような「吃音」の子がいたら最後まで話を聞いてあげてください。その少しの「待ち時間」が誰かの心を救い、社会を明るく照らす一歩になると僕は信じています。